

平成30年度

地方自治研究セミナー

(第2回) 報告

期 日：平成31年1月23日（木） 13:30～

場 所：桑折町 屋内温泉プール・多目的スタジオ「イコーゼ」

演 題：「東北中央道と地域活性化」
～地域経済循環と観光地域づくりに着目して～

講 師：福島大学経済経営学類 准教授 吉田 樹 氏

国見町議会

東海林一樹	議長	・・・・・・・・	2
阿部泰藏	副議長	・・・・・・・・	3
八島博正	委員	・・・・・・・・	4
浅野富男	委員	・・・・・・・・	5
松浦常雄	委員	・・・・・・・・	6
渡辺勝弘	委員	・・・・・・・・	7
佐藤定男	委員	・・・・・・・・	8
井砂善榮	委員	・・・・・・・・	9～10
村上 一	委員	・・・・・・・・	11
松浦和子	委員	・・・・・・・・	12

地方自治研究交流セミナー（第2回） 報告書

平成31年1月31日

国見町議会議員 東海林 一樹

【開催日時】 平成31年1月23日 午後1時30分～3時40分

【会場】 桑折町 多目的スタジオ「イコーゼ」

1. 演 題

「東北中央道と地域活性化」～地域経済循環と観光地域づくりに着目して～

2. 講 師

福島大学経済経営学類 准教授 吉田 樹 氏

3. 内 容

我が国の国土計画と高速道路網の整備から説明に入り、道庁整備の便益評価等の話のあと東北中央道が整備されることにより、伊達三町にどのような効果があるかについて開通後の交通需要予測から検証がありました。また、三町それぞれの地域経済循環図を元に分析したものの説明がありました。

最後に観光とはなんぞやの説明があり、その町にある観光資源の生かし方についての話しがありました。

4. 感 想

同じ話しでも見方が違うと面白い分析が出てくるのだと感じました。

地方自治研究交流セミナー（第2回）

平成31年1月31日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 阿部泰蔵

【研修期日】平成31年1月23日午後1時30分

【場所】桑折町屋内プール・多目的スタジオイコーゼ

【講師】福島大学経済経営学類 吉田樹 氏

講師吉田樹氏の専門は、公共交通を活用しまちおこしの取り組みや公共交通を活用して地域観光政策を専門としています。

午後1時30分より、直ちに伊達3町議長会片平議長の挨拶後、講演が行われた。

○東北中央道の整備計画について

・東北中央道整備計画は、基本計画で中止状況であったが東日本大震災後に「復興支援道路」として整備された。

・相馬・福島間の経済的効果は、1・4億円と高い数値でなかった。

・その他主な効果

①災害発生時に自衛隊基地を拠点とした陸上輸送、

②福島医大に患者の救急搬送の時間が短縮された。

○東北中央道整備に伴う伊達郡3町の効果

①道の駅国見あつかしの郷の来訪者137.2万人・川俣道の駅シルクピア来訪者18.6万人が年間立ち寄るが目立つ観光対象は少ない。

②今後、東北中央道の開通によって国道・県道の交通需要の減少が想定される、今後の経済が課題として考えられる。

○観光について

①観光産業と経済効果

観光産業の「裾野の広さ」から、経済効果に着目される。

観光産業は第3次産業の中でも成長部門であり、関連する分野が広いので経済的効果も期待される。

【感想】国見町では、国道4号線を活用して休憩施設と商業施設を併用した道の駅を平成29年5月にオープンした。来訪者も順調に伸び150万人が訪れ
収支は8億円を売り上げたが5千万円の赤字決算となった。このことから、国道や県道路線を活用して地域の経済や観光に結びつけるまちおこしは、簡単なものではないと思いました。

以上報告とします。

地方自治交流セミナー（第2回）報告書

平成31年1月29日

国見町議会議長 東海林 一樹 様

国見町議会議員 八島 博正

【研修日時】 平成31年1月23日（水） 午後1時30分～午後3時30分

【場 所】 桑折町 多目的スタジオ「イコーゼ」会議室

【研修内容】

- ① 講演 東北中央道と地域活性化
—— 地域経済環境と観光地域づくりに着目して ——
講師 福島大学経済経営学類 准教授 吉田 樹 氏

② ディスカッション

【感想】

- ① 東北中央道の建設の歴史とその意義について
東日本大震災により、復興支援道路として建設が促進された。
特に「東西」のネットワークの必要性と役割が大きいが、地域の活性化に結び付くかは疑問である。むしろ地域づくりを見直す契機になる。
- ② 地域の観光づくりにも影響するが具体策は見つからない。特に観光についての定義がなく、国見町にとってプラスにするにはどうすれば良いのかが見い出せない。
- ③ 地域経済への影響も具体的にはわからない点が多い。

全面開通になった場合、相馬地方や米沢地方から東北道路へのアクセス道路として利用される方が多くなるのではないかと

地方自治研究セミナー（第2回）についての報告

国見町議会議長 東海林一樹 様

平成31年 1月31日
国見町議会議員 浅野富男

開催日時 平成30年 1月23日 午後1時30分～
場所 桑折町 屋内温水プール・多目的スタジオ「イコーゼ！」
演題 東北中央道と地域活性化
—地域経済循環と観光地域づくりに着目して—
講師 福島大学経済経営学類准教授 吉田 樹 氏

国土計画と高速道路網の整備についてこれまでの経緯についての話がなされた。国土総合開発法が1950年に制定され1962年に全国総合開発計画が策定、以後10年ごとに第五次まで計画が策定され国土開発政策の指針となる。第一次では拠点開発方式とられ常磐地区が指定、第二次では大規模開発計画となり幹線道などの整備計画、原発関連のむつ小川原などが指定された。第三次では技術都市構想、第四次では重化学工業の多極分散型の政策や、リゾート開発などが行われた。第五次では「21世紀の国土のグランドデザイン」となっている。この流れの下で高速道路が整備されてきたことになるが、日本の産業がどのように構築されてきたかが良く分かる。そして身近な問題では東北中道の話になるが、この道路は基本計画だけであったが「復興支援道路に指定」されとことから建設に着手されたとのこと。道路の建設は走行時間の短縮、走行経費減少、交通事故減少の「主要3便益」で評価されるとのことだが、大震災があり災害時の対応する必要が評価されたもの。道路の建設と地域の経済効果をどう結び付けるのかは取り組み方次第となる。

観光についての話もあった。「観光」とはとして、日本国内では、はっきりとした定義はないそうである。ただし世界的には「異文化交流」が観光の本質として捉えられているようである。そして観光まちづくりの基本はなんといっても「人」であることが強調された。地域にあるものを磨くことが大切だがそれを行うのは「人」ということである。住む人が「心地よいまち」は、訪れる人も「心地よい」との説明は「観光」で歩く人の立場からすると納得のいく表現でもある。そして観光が「異文化交流である」とすると、コミュニケーションを大事にすることは不可欠の要素となる。また人の動きも調査する必要があるとのことでした。

【感想】

道路と産業との関連が分かりやすい話ではなかったかと思う。道路の建設の要点など具体的な話もあって、初めて聞くことも多かった。また産業について、観光についてもそれぞれ捉え方の視点などもお話があり良かったと思う。資料も豊富であり今後活用できるかなと思う。

地方自治研究交流セミナー（第2回）報告書

平成31年1月28日

国見町議会議長 東海林一樹 様

国見町議会議員 松浦 常雄

【研修日時】 平成31年1月23日（水）午後1時30分～3時30分

【会 場】 桑折町「イコーゼ」

【研修内容】

1 演 題 「東北中央道と地域活性化」—地域経済循環と観光地域づくりに着目して
講 師 福島大学経済経営学類 准教授 吉田 樹 氏

2 内 容

(1) わが国の国土計画と高速道路網の整備について

- ・相馬福島道路は、計画止まりとなっていて実現が難しかったが、東日本大震災起こって、「復興支援道路」に格上げされ、高速道路として建設されることが決定されたことが理解できた。

(2) 道路整備の便益評価について、

①主要3便益 「走行時間短縮」「走行経費減少」「交通事故減少」

②東日本大震災後に見直された「東西」のネットワーク

- ・東日本大震災により、日本海側の北陸道や関越道、直轄国道の交通量が増加した。
- ・相馬福島道路「相馬～福島間」は、防災面の効果が大きく再評価されて実現された。
- ・悪天候や災害時の道路交通の信頼性向上の面からも、相馬福島道路の高速道建設が進められた。

(3) 東北中央道の整備効果について

- ・米沢（置賜）—福島周辺—浜通北部の観光交流の軸となることが見込まれた。

(4) 伊達郡3町への効果・課題

- ・小規模自治体で「効果」を発揮させることはかなり大変である。それには、「観光地域づくり」を地道に展開することが得策である。

(5) 新しい国土形成計画・・・対流促進型国土にする。

(6) 伊達郡3町の地域経済循環について

- ・国見町の場合：地域外からの所得の流入が比較的多い。

(7) 「観光」をツールに地域を活性化する。「3種のコンテンツ」をどう磨き、「資源」とするかが大切。(①中核的コンテンツ ②支援的コンテンツ ③付加的コンテンツ)

- ・地域にある「コンテンツ（人、モノ、サービス・・・）」を探し、それを「見つめ直す（再評価する）ことから始めることが大切。
- ・国見町について考えると、地元の人、もの（資源）を生かし、心のこもったサービスで来町者をもてなすことが観光の重要策といえる。

地方自治研究交流セミナー（第2回）報告書

平成31年1月27日

国見町議会議長 東海林 一樹 様

国見町議会議員 渡邊 勝弘

【日 時】 平成31年1月23日（水）午後1時30分～午後4時

【場 所】 桑折町 屋内温泉プール・多目的スタジオ「イコーゼ」

【内 容】

1、演 題

「東北中央道と地域活性化—地域経済循環と観光地域づくりに着目して」

2、講 師

福島大学 経済経営学類 准教授 吉 田 樹 氏

3、内 容・感 想

東北中央道は第4次全国総合開発計画により、延伸・追加された路線の位置づけであり、基本計画止まりであったが、東日本大震災後に「復興支援道路」に指定される。この道路の開通による、地域経済循環とそれに伴う地域活性化について講義を受ける。高速道路整備として「走行時間短縮」「走行経費減少」「交通事故減少」が判断基準となるが、東日本大震災に見直された「浜通り」「中通り」のネットワークの重要性が見直された。防災面の効果が大きい事業の再評価である。特に、防災機能や救急医療施設（福島医大）への搬送時間短縮に最大の効果が期待されるという事でした。また、整備により浜通りからの観光客が増加して観光交流が期待できます。では、国見町ではどのような効果が期待されるのでしょうか。現在観光客数は300万人を超え観光拠点としては成果がでていていると考える。しかしながら、一般道の交通量が減るが到達時間が早まるために、観光する場所が増えてくる。そのため、ライバルが増えることになる。そこに、勝ちぬいていかなければならない。観光客を留めさず宿泊施設がある「道の駅国見の郷」をどのように展開していくのか、そしてただの観光地だけをPRするのではなく、観光地を周回出来る交通機関を考えることで勝ち残れる観光地が出来上がると考えます。今後自分たちができることを地道に考え、行動しなくてはならないと思わせる講義でした。

地方自治研究交流セミナー（第2回） 報告書

平成31年1月26日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 佐藤 定男

【開催日時】平成31年1月23日 午後1時30分より

【会場】桑折町 多目的スタジオ「イコーゼ」

1. 演題

「東北中央道と地域活性化」～地域経済循環と観光づくりに着目して～

2. 講師

福島大学経済経営学類 准教授 吉田 樹 氏

3. 内容

(1) 東北中央道の整備効果

- 相馬・福島両市の所要時間短縮…緊急車両の円滑化が図られる。
- 米沢・福島市周辺・浜通り北部の広域観光ルートが形成され交流人口の増加と、活発な観光交流が期待される。
- 伊達郡3町の既存の周辺道路の交通需要は減少することが予想される。

(2) 観光をツールに地域を活性化するには

- 「異文化交流」が観光の本質である。
- プロセスとしては「地域にあるもの」を磨くことが重要、地域にある「コンテンツ（人、モノ、サービス…）を探し、それを「見つめ直す（再評価する）」ことから始める。

(3) ディスカッション（抜粋）

- 「道の駅国見」への来場者を観光に結びつけるには？
 - ・歴史遺産の解説・説明等は専門家・業者ではなく地元の人がいい。
 - ・バスなどで「～と行く歴史散歩」といった企画をPR、口コミで広げる。
- 最終的にネクスコ、JRなどとタイアップできるようになれば素晴らしい。

【感想】

○東北中央道開通への期待は膨らむが、小規模自治体でその効果を発揮させるのは結構大変なようだ。今あるものを大切に、変化する状況に合わせてやっていくしかないであろう。

地方自治研修交流セミナー(第2回) 報告書

平成31年1月31日

国見町議会議長 東海林 一樹 様

国見町議会議員 井砂 善榮

【日 時】平成31年1月23日(水)

【場 所】桑折町 イコーゼ

【演 題】

東北中央道と地域活性化

—地域経済循環と観光地域づくり着目して—

福島大学経済経営学類 准教授 吉田 樹氏

1 わが国の国土計画と高速道路網の整備

・東北自動車道の整備

第4次全国総合開発計画により延伸・追加された路線の一つとして、高速自動車道路A路線に位置づけ、相馬福島道路はA路線に指定された「阿武隈道路」を除き、基本計画止まりであったが東日本大震災後に「復興支援道路」に指定

2 道路整備の便益評価

・道路整備における「主要三便益」

わが国では「走行時間短縮」「走行経済費減少」「交通事故減少」の主要三便益の合計費用に対し十分に大きいかを道路整備の判断基準としてきた

・地方の意見・・・交通量が少ない地方は三便益が低い

・東日本大震災後に見直された「東西」のネットワーク

相馬→霊山→福島の事業化

3 東北中央道の整備効果

・道路交通の「信頼性」向上・・・悪天候、災害時

・相馬、福島市の所要時間短縮・・・緊急車両の円滑化

・米沢(置賜)⇔福島市周辺⇔浜通り北部の観光交流軸

4 伊達郡3町への効果・課題は？

①産業の立地は進むのか？

②観光は進むのか？

5 伊達郡3町村の地域経済循環

国見町地域経済循環率 67.5%

川俣町地域経済循環率 69.2%

桑折町地域経済循環率 91.8%

6 観光とは何か？

余暇時間の中で日常生活圏を離れて行う様々な活動であって触れ合い、学び、遊ぶということを目的とするものであり、半日以上や宿泊を伴うものと講演を受けた。

7 今思うに過去40年前には桑折町、旧梁川町にあっては工業団地整備と雇用促進住宅(ビル)

建設に着手し、その時期国見町は氷河時代から菊政町政に入り、工業団地造成、住宅団地造成、富永町政では雇用促進住宅6本、板橋住宅団地造成、文化センター建設等々、太田町政では町役場建設、道の駅建設等、桑折町を除き各町に高校を有してあったが教育関連施設、ビジネス訓練所が新設され若人が集い中央道の開通にともない県境の町小さな拠点として今後益々輝きさらなる発展進化するものと信じる次第。

地方自治研修交流セミナー（第2回）報告書

平成31年1月28日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 村上 一

【日時】平成31年1月23日（水）

【場所】桑折町 イコーゼ

【内容】《テーマ》 東北中央道と地域活性化

～地域経済循環と観光地域づくりに着目して～

《講師》 福島大学経済経営学類准教授 吉田 樹氏

東北自動車道は第4次全国総合開発に基づき整備された。相馬福島道路は基本計画どまりであったが、東日本大震災後に「復興支援道路」に指定され道路整備の便益評価で事業化され、また、防災面での効果も大きいと再評価された。現在の国土形成計画は対流促進型国土が進められており、生活や観光において《どのようなシーン》で《どのように使ってもらいたいのか》を地域ごとに発想し具現化することが重要である。国見町の地域経済循環度は運輸業・農業・食料品が高い。他産業の新たな需要による波及効果が見込めるのか、また、当該産業の新たな需要が他産業に波及効果をもたらすことができるかが鍵を握る。

「観光」とは何か。異文化交流が観光の本質である。観光に注目が集まる理由は、第三次産業の中でも外貨獲得手段として有効な手段であるからである。

【感想】

先日、宮城県の松島へカキ食べ放題に行ってきた。旬の食べ物ということもありお客さんが大勢訪れていた。新鮮なカキを目の前で調理してもらった実演や店のおばさんの「おもてなし」も嬉しく、又行こうと思っている。

国見の道の駅でも《桃やリンゴの食べ放題》やお客様の目の前で果実を絞る生ジュースの販売など、お客様との対面での販売も国見町ならではの「おもてなし」の気持ちが伝えられる方法ではないかと思った。

地方自治研究交流セミナー（第2回）報告書

平成31年1月31日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦和子

1. 日時 平成31年1月23日（水）午後1時30分
2. 場所 桑折町屋内温水プール・多目的スタジオ「イコーゼ！」
3. 研修名 平成30年度地方自治交流セミナー（第2回）

【講師】 福島大学経済経営学類准教授 吉田 樹氏

【内容】 1、講演

演題「東北中央道と地域活性化—地域経済循環と観光地域づくりに着目して—」

●演題を1から15項目に分類しての講義

1	わが国の国土計画と高速道路網の整備	2	道路整備の便益評価
3	東北中央道の整備効果	4	ところで、伊達郡3町への効果・課題は
5	新しい国土形成計画・・・対流促進型国土	6	伊達郡3町の地域経済循環
7	「観光」とは何か？	8	「観光」に注目が集まる理由
9	地域観光市場の特徴と近年の変化	10	「観光」をツールに地域を活性化する
11	福島県の「中核的コンテンツ」は何か？	12	目的地として「選ばれる」までの課題
13	侮れない「公共交通」のインパクト	14	公共交通は地域づくりのプラットフォーム
15	さいごに		

2、ディスカッション

【感想】第2回平成30年度地方自治交流セミナーが桑折町をお願い致します。会場に開催された。

今回の講師は、国土交通省の懇談会メンバー等でご活躍の福島大学経済経営学類准教授吉田 樹氏の講演であった。第四次全国総合開発計画（1987年）により、東北中央自動車道整備が計画されたが、その後20年以上、進展がなかったが、東日本大震災後に「復興支援道路」に指定された。3町（国見・桑折・川俣）は高速道路のネットワークの中にある。日本の産業構造が変化してきているので具体的に進めて行かなければならない。地域づくりは町の名士を集めた委員会ではなく、基礎の所で頑張っている人たちが大切だとのお話は印象的でした。観光では、外国人旅行者は、団体ではなく8割は個人旅行で、ありのままが見たいと考えている。東京を起点とした都市間交通（新幹線・高速道路網）の発達を旅行者は活用している。また、何を観光の中核にするかが大切なことのお話であった。観光客から目的地として選ばれるまでの課題等についても、事例を具体的に紹介されてのお話はインパクトがあった。福島県は高速道路網に恵まれており、自治体は相馬福島道路が開通した先の先までイメージし、対策を講じて行かなければ慌てることになる、強く感じた。

以上